

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

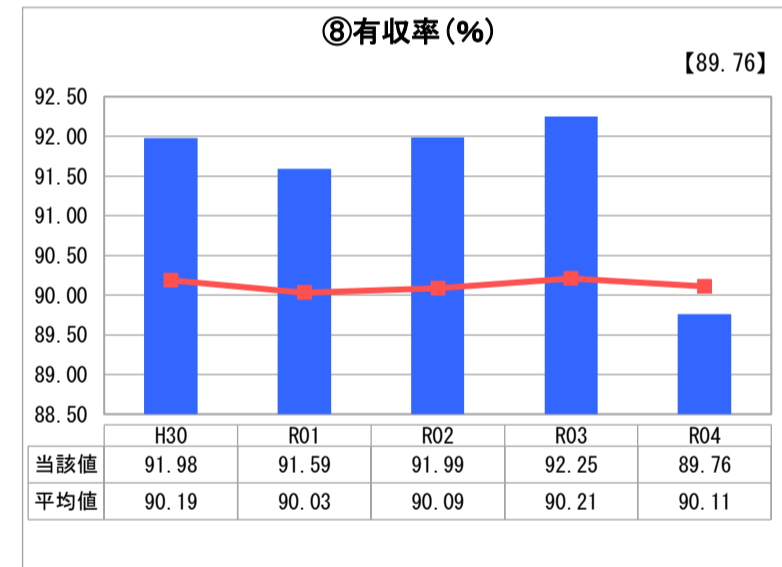
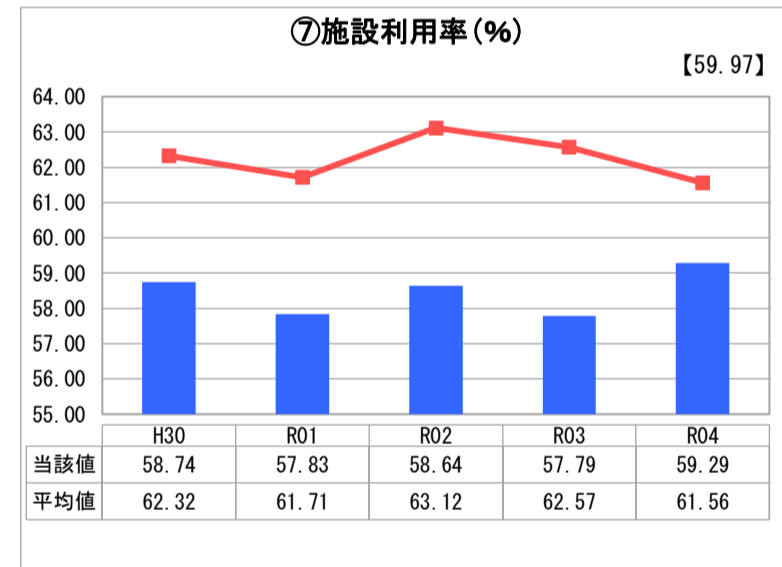
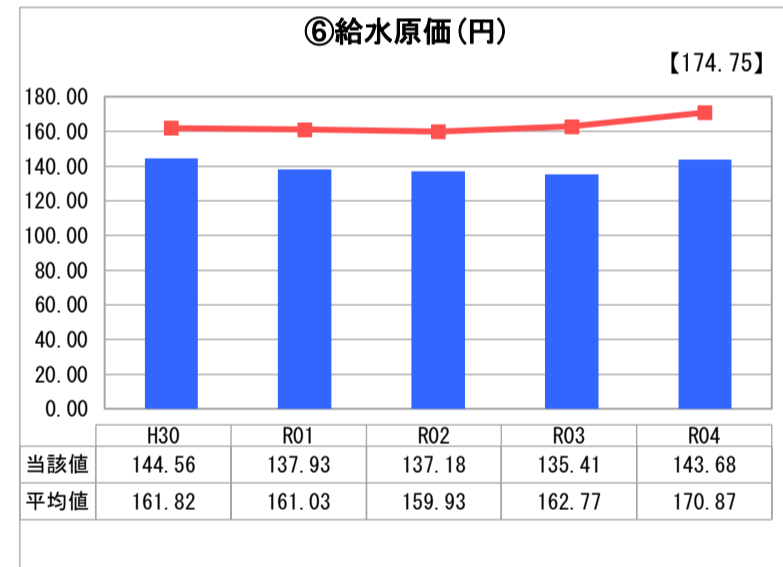
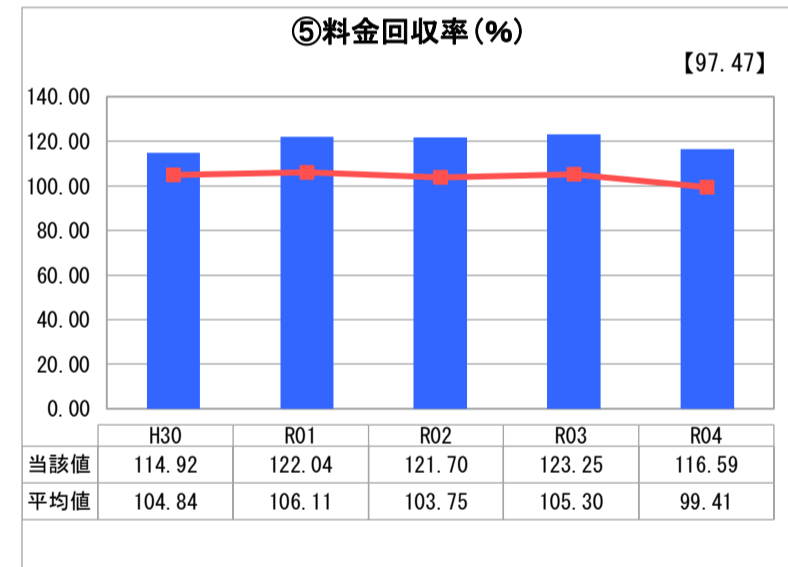
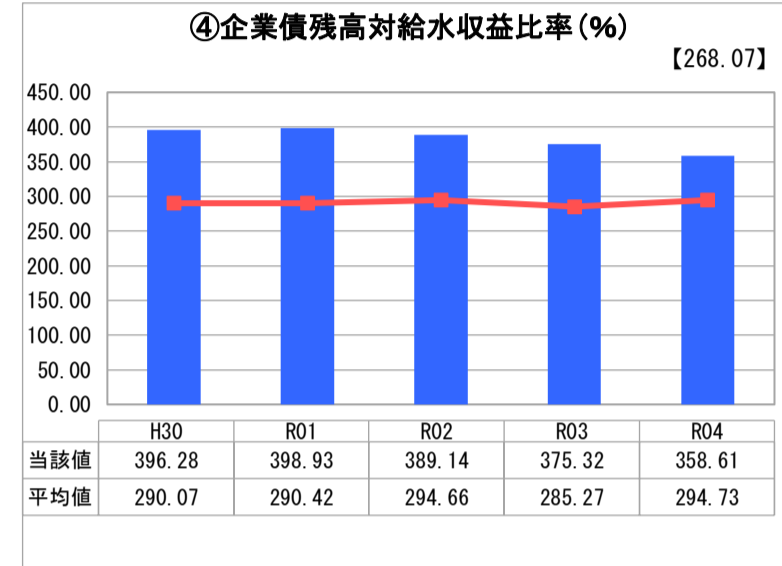
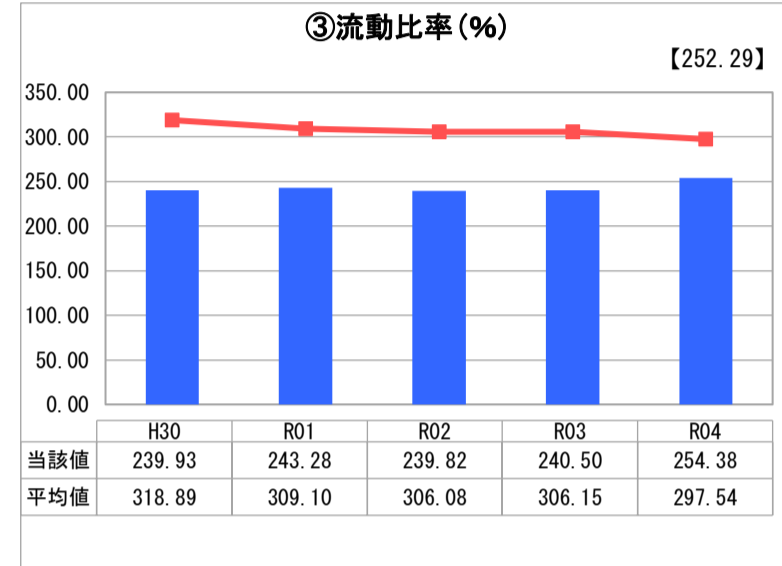
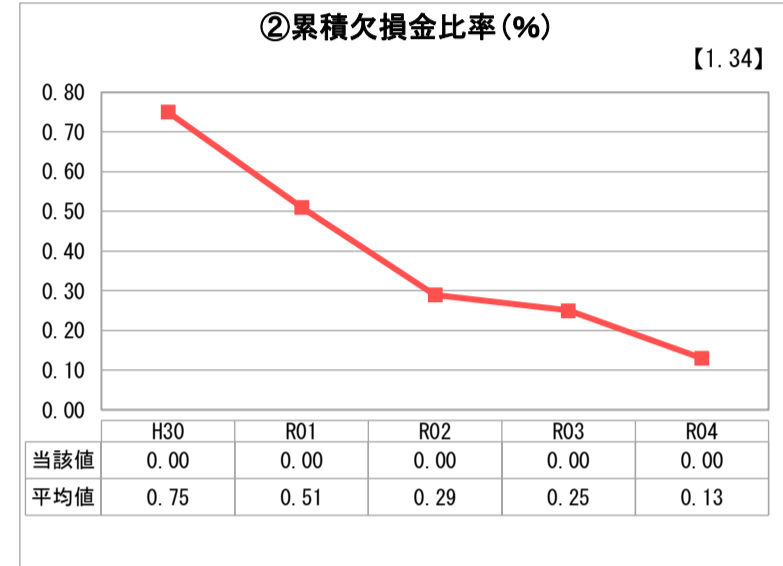
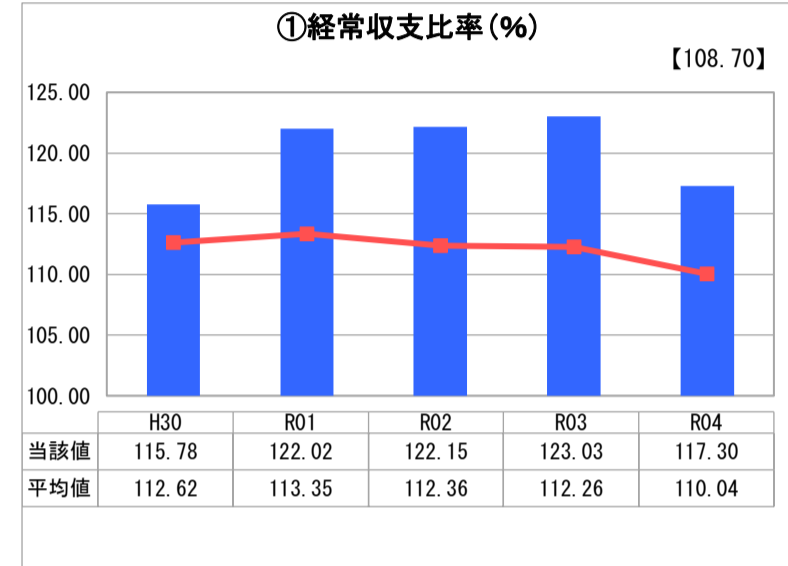
三重県 鈴鹿市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	70.36	99.91	2,667	

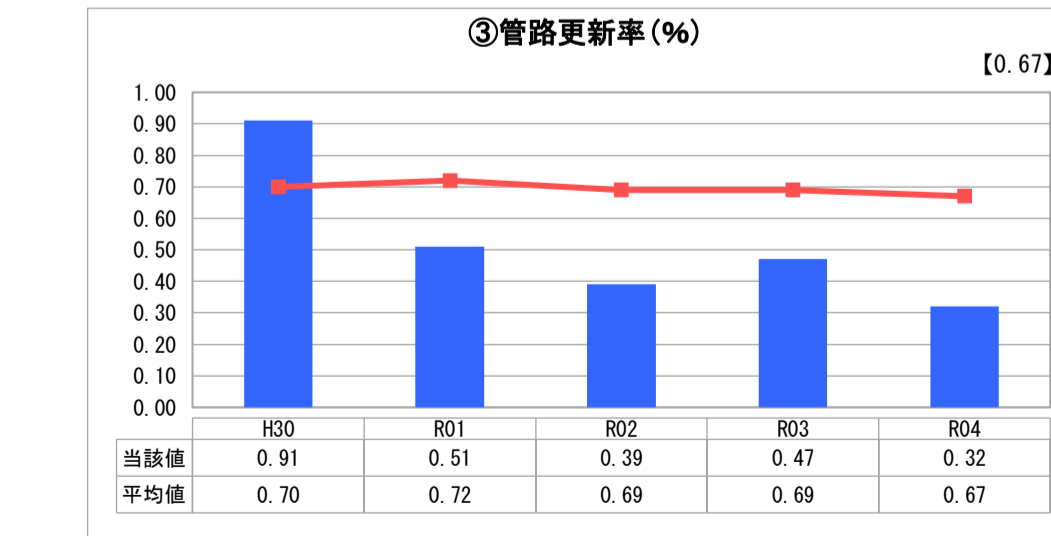
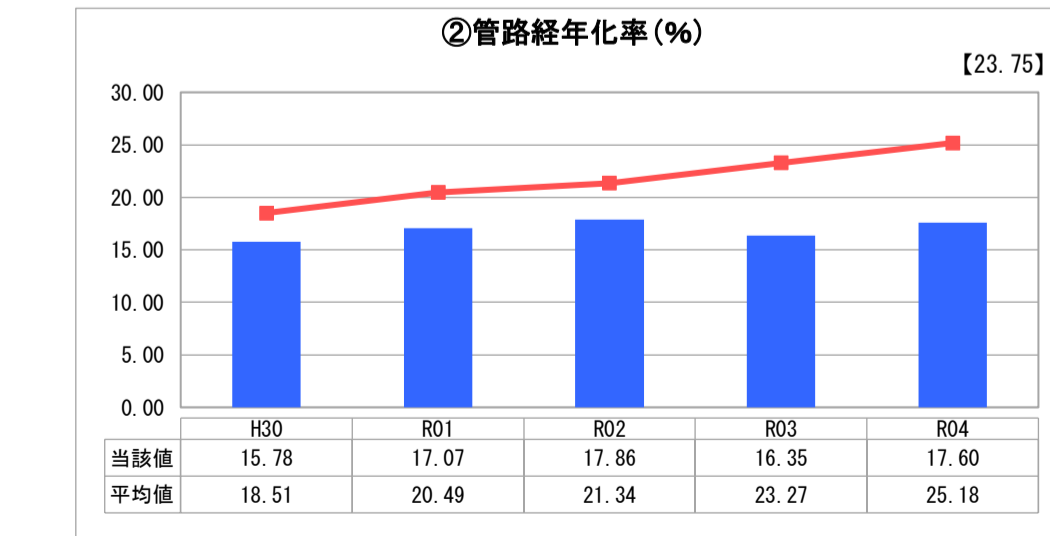
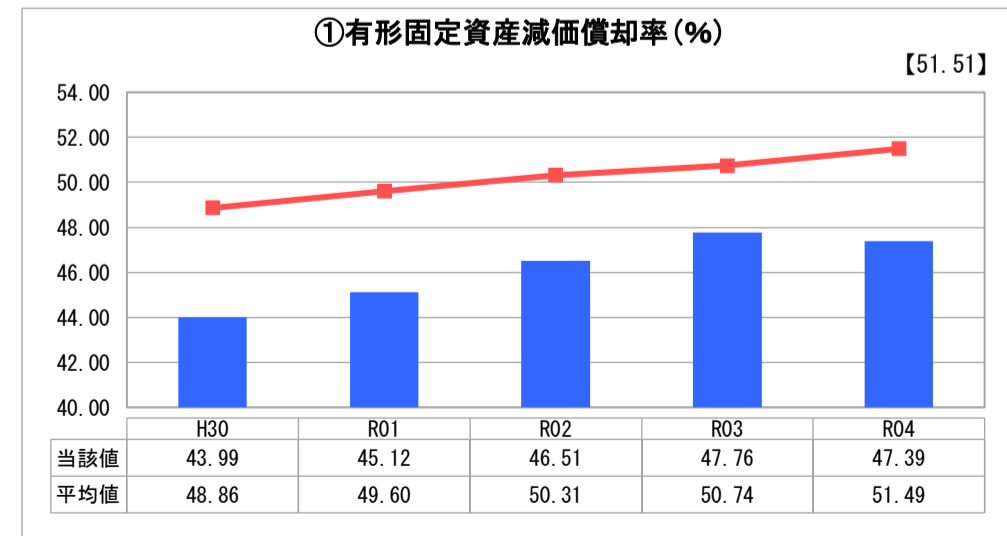
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
196,461	194.46	1,010.29
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
195,788	169.08	1,157.96

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、主に電力料金の高騰に伴う営業費用の増加の影響により前年度より減少したものの100%を超えており、経常収支が黒字であることを表している。累積欠損金も生じていないため、経営の健全性は保たれている。

流動比率は、100%を超えており短期的な債務に対する支払能力を有している。

企業債残高対給水収益比率は、3年続けて低下したが、依然として類似団体平均値を上回っていることから、将来世代への負担も考慮した適切な財源の確保に努めていく。

料金回収率は、100%を超えており経営の安定に寄与しているが、住民サービスの向上や水の安定供給に向けて、今後もより適切な料金収入の確保や投資の合理化等に取り組む必要がある。

施設利用率は類似団体平均値を下回っている。今後の給水人口の減少等を踏まえ、施設規模の適正化や施設の統廃合を引き続き検討していく必要がある。

有収率は、前年度より減少し類似団体平均値を下回ったが、これは新配水池の切替作業に伴い配水量が増加したことが要因である。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、上昇傾向にある。

管路更新率は、類似団体平均値を下回っているが、これは本市の管路工事において、供用開始までは管路更新の実績値に含めない更新工事による未供用分の割合が多いことによるものである。

今後も老朽管路等の更新に取り組んでいくが、耐震化等の更新工事には多額の費用を要するため、更新経費が経営に与える影響を考慮し、事業費の平準化や施設規模の適正化など投資の合理化に努めていくことが重要である。

### 全体総括

令和4年度は、世界的な原油価格の高騰に伴う物価上昇の影響を受け営業費用が増加し、昨年度と比較して利益が減少した。

水道事業は、人口減少に伴う給水人口の減少等から収益の増加が見込めない一方、管路や施設の老朽化及び耐震化に伴う多額の更新費用が必要となるなど厳しい経営状況が予想される。

今後も、令和4年度に改定した鈴鹿市上下水道事業経営戦略に基づき、継続的に事業の効率化を図るほか、将来世代に過度な負担を残さないよう企業債への依存を抑制するなど、中長期的な視点に立った安定した経営に努めていく。